

### ◆人文学研究所の事業

人文学研究所は1963年、人文学研究領域相互の活発な研究活動を支援することを目的に神奈川大学の附属研究所として設立されました。

人文学研究所の主な活動は

- ① 人文学に関する研究及び調査
- ② 研究資料の収集及び整理
- ③ シンポジウムや講演会開催
- ④ 研究及び調査成果の発表のための刊行物の発行

などを中心としています。具体的には、人文学系の各種テーマによる共同研究グループの共同研究を大きな柱に様々なシンポジウム・講演会を開催し、また、『神奈川大学人文学研究叢書』を発行するなど多彩な活動を行っています。

### ◆人文学研究所の研究活動

人文学研究所の活動は、共同研究グループによる調査・研究活動と、国外研究機関との学術交流やシンポジウムの開催の二つに分けることができます。本研究所設立以来、活動を展開した共同研究グループは総数30グループ以上を数えます。

#### 【人文学研究所共同研究グループ一覧】

(2022. 7)

No.	名 称	研究テーマ
1	日中関係史	近代以降現在までの日中関係の諸問題
2	言語変異研究	中国語の語彙近代化問題
3	〈身体〉とジェンダー	近代以降、大きく転換した身体表象の変容と、その文化的・社会的メカニズムとの関わりについて、なかでもジェンダーという視点に注目しながら、地域や時代を横断し、多様なテキストをもとに考察する。
4	自然観の東西比較	風土を基礎にした神と自然についての歴史的、思想史的な比較研究
5	ヒト身体の文化的起源	人間の身体を系統的に遡り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討する。
6	日中韓対照言語研究	日中韓三言語におけるヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティの対照研究
7	各国近代文学の研究	1. 各国の近代文学の対象・方法・成果を比較・検討する 2. 各国の近代文学（研究）の社会的・歴史的配置を研究する 3. 「新しい文学研究」の方法論・実践を模索する
8	知覚認知システムの普遍性と多様性	人の知覚・認知の仕組みについて、研究することを目指しており、特に、知覚の様相や認知的様相に共通な普遍性とそれらの様相の相互効果によって展開した多様性を現象・行動観察や計算論的解析などを通して明らかにする。
9	学びの見える化	専門職等の人材育成の見える化を行い、教育・学習のあり方や体系化を検討する。
10	臨床心理学研究グループ	臨床心理学に関する包括的研究
11	芸術（アート）と物語の交雑／発信力	広義の芸術（アート）について、物語との交雑を視野に入れて、調査・研究を行う。
12	おとぎ話文化研究	おとぎ話とそのアダプテーションについて、特に「おとぎ話と多種共生」の問題を中心に、文化、時代、メディアを横断する視点から研究する。
13	神奈川の地域と文化	横浜をはじめとする神奈川県内のさまざまな地域の文化・歴史・民俗・地理・観光の諸相について、本学に集う様々な領域（観光学、考古学、地理学、民俗学、歴史学など）の研究者たちが集い、それぞれの強みを活かしつつ他の領域の手法からも刺激を受けながら、学際的に探究していく。
14	観光と美術	美術とは、人間が社会を築き、それぞれの歴史、宗教、生活、自然環境から生み出された表現である。最近では地域の歴史遺産や伝統工芸は重要な観光資源としてにわかに注目されてきているが、その活動は一過性のものが多い。本研究グループは、美術（特にフェインアート）や工芸デザインの分野に特化し、観光における功罪を再認識し、その正負の効果を体系化する。美術・工芸デザインの真の美的価値を評価できるアート・リテラシーを向上させることで、観光での活用を持続可能なものにすることが目的である。

15	言語景観と多文化共生	観光立国日本の多言語表示と情報発信を再考する
16	国際日本研究	日本文化（社会や歴史、文学、美術、宗教、メディア等を含む）を国際的な視野で、学際的かつ総合的に研究すること

※活動休止中「越境する比較文化」「NCH 新聞研究会」

## ◆人文学研究所・2022 年度・講演会

敬省略

No.	月日	講演者	テーマ	所属（職業）
1	8 月 5 日（金）	信 岡 朝 子	「狩猟と男性性——北米におけるホワイト・ハンター神話と「存在の大いなる連鎖」」	東洋大学文学部

## ◆学術交流とシンポジウムの開催（主催・共催を含む）2016 年～2022 年

- ◇国際シンポジウム「中国古典小説研究 30 年の回顧と展望」(Studies on Chinese Classic Novels Retrospect for 30 Years and Prospect for the Future) 2016 年
- ◇「ホスピタリティと人文学の役割——足元からの多文化共生——」  
【第一部】公開シンポジウム 【第二部】公開講演会 2016 年
- ◇国際シンポジウム「クィアな変容・変貌・変化（トランスフィギュレーション）：アジアにおけるボーイズラブ（BL）メディア」(Queer Transfigurations: International Symposium on Boys Love Media in Asia) 2017 年
- ◇国際シンポジウム「デザインミュージアムのヴィジョン」2022 年

## ◆人文学研究所の出版物

人文学研究所は研究所の諸活動によって得られた成果を社会に還元するために『人文学研究所報』を年に 2 回発行しています（2022 年度 第 68・69 号）。国外研究機関との学術交流の成果としては、浙江大学日本文化研究所との共編で『中日文化論集』（1991～1999, 中国語）を発行してきました。さらに、共同研究グループの研究成果をまとめた学術書シリーズ『神奈川大学人文学研究叢書』を刊行しています。

# 人文学研究所共同研究グループ一覧

2022 年度

No.	名 称	研究テーマ	活 動 計 画	代表者	メンバー	人数	叢書
1	日中関係史	近代以降現在までの日中関係の諸問題	1. メンバー各自の関心に基づく研究会の開催 2. 学外研究者の講演、研究交流 3. 日中相互の留学生に関する調査研究 4. 在日華僑に関する調査研究 5. 中国と東アジアにおける旧日本租界・居留地に関する調査研究	孫 安石	孫 安石・松本安生・村井寛志・柳澤和也 〔名誉〕大里浩秋・鈴木陽一 〔元教〕吉川良和 〔学外〕内山 籐・川島 真・中村みどり・劉建雲・荒川 雪・周 一川・見城憐治	14	2022 年度は無
2	言語変異研究	中国語の語彙近代化問題	1. 中国語の言語近代化に関するデータ収集と資料調査 2. 近代中国語の外来語と和製漢語借用に関する資料調査 3. 「国語」という中国語の成立に関する資料調査 4. 言語景観と中国語近代化の関連に関する資料調査	彭 国躍	彭 国躍・加藤宏紀・夏 海燕 〔非〕楊 洲	4	2022 年度は無
3	〈身体〉とジェンダー	近代以降、大きく転換した身体表象の変容と、その文化的・社会的メカニズムとの関わりについて、なかでもジェンダーという視点に注目しながら、地域や時代を横断し、多様なテキストをもとに考察する。	2020 年に発行した叢書『男性性を可視化する』の反省をもとにしつつ、2020 年度から「種」や「動物」とジェンダーの関わりをテーマにした叢書の出版を目指して、学内・学外から多くの新メンバーを集め研究会を組織している。2022 年度も研究発表を重ねていき、叢書計画の輪郭を整える予定である。	熊谷謙介	熊谷謙介・村井まや子・クリスチャン ラットクリフ・鈴木宏枝・秋山珠子・笠間千浪・角山朋子 〔名誉〕山口ヨシ子 〔非〕岡部杏子 〔学外〕古屋耕平・菅沼勝彦・江崎聡子・小松原由理・中村みどり・田中里奈	15	検討中 2023 年度予定
4	自然観の東西比較	風土を基礎にした神と自然についての歴史的、思想史的な比較研究	1. 研究テーマに関する調査・研究・資料蒐集 2. メンバーを中心とした研究会の開催 3. 外部の研究者による講演会の開催	上原雅文	上原雅文・小熊 誠・坪井雅史・前田禎彦・村井まや子・山本信太郎・大川真由子・中村隆文・ルパート プライアン・角南聡一郎・矢崎佐和子 〔名誉〕伊坂青司・鳥越輝昭	13	2022 年度は無
5	ヒト身体の文化的起源	人間の身体を系統的に遡り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討する。	1. 研究テーマに関連した講演会を年 4 回程度実施する。 2. 研究テーマに関連した調査を行う。	衣笠竜太	衣笠竜太・笹川 俊・北岡 祐 〔非〕八重嶋克俊・中島孝寛・山崎由紀奈	6	2022 年度は無
6	日中韓対照言語研究	日中韓三言語におけるヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティの対照研究	1. メンバーによる研究発表 2. 研究関係者による講演会の開催 3. 論文の投稿・外部学会での発表の支援	尹 亨仁	尹 亨仁・佐藤裕美・高木南欧子・鈴木 慶夏・山田昌裕・佐藤 梓・由川美音 〔非〕稲毛 恵・李 貞改	9	2022 年度は無
7	各国近代文学の研究	1. 各国の近代文学の対象・方法・成果を比較・検討する 2. 各国の近代文学（研究）の社会的・歴史的配置を研究する 3. 「新しい文学研究」の方法論・実践を模索する	1. 研究テーマに即した調査・研究の実施 2. 各メンバーの関心に基づく研究会の開催 3. 学外研究者の講演、研究交流	松本和也	松本和也・熊谷謙介・水川敬章 〔元教〕古屋耕平・中村みどり 〔非〕岡部杏子 〔学外〕吉田遼人・アスアヘアラモ	8	検討中 2023 年度予定
8	知覚認知システムの普遍性と多様性	人の知覚・認知の仕組みについて、研究することを目標としており、特に、知覚の様相や認知的様相に共通な普遍性とそれらの様相の相互効果によって展開した多様性を現象・行動観察や計算論的解析などを通して明らかにする。	・共同研究遂行 ・公開講演会開催（随時） ・研究報告会開催（2023 年 2 月）	吉澤達也	吉澤達也・前原吾朗・松永理恵・麻生典子	4	検討中 2022 年度予定

9	学びの見える化	専門職等の人材育成の見える化を行い、教育・学習のあり方や体系化を検討する。	研究テーマの内容に基づき、各々テーマから専門職の人材育成の見える化を目指す。2022年度は、報告書作成及び出版化に向けて、研究成果を公開する。研究会の実施方法としては、 ○研究会を月1回ペースでzoomにて実施する。 ○講演会を1回行う。研究メンバーは、下記の登録者以外に学内と学外とで、内容に応じてメンバーを募って実施する。	齊藤ゆか	齊藤ゆか・太田早織 〔学外〕森 和夫・西村美東士	4	検討中 2022年度 予定
10	臨床心理学研究グループ	臨床心理学に関する包括的研究	国家資格公認心理師の課題と展望の包括的研究 ・国家資格保有者の分類、属性、就業状況などの職能的な情報の収集 ・厚生労働省の公認心理師関連の政策や施策についての情報収集 ・職域の拡大や変化についての情報収集	杉山 崇	杉山 崇・瀬戸正弘・山島圭輔・麻生典子・森田麻登	5	2022年度 は無
11	芸術（アート）と物語の 交雑／発信力	広義の芸術（アート）について、物語との交雑を視野に入れて、調査・研究を行う。	1. 研究テーマに即した調査・研究の実施 2. 各メンバーの関心に基づく研究会の開催 3. 学外研究者の講演、研究交流	松本和也	松本和也・藤澤 茜・水川敬章	3	2022年度 は無
12	おとぎ話文化研究	おとぎ話とそのアダプテーションについて、特に「おとぎ話と多種共生」の問題を中心に、文化、時代、メディアを横断する視点から研究する。	1. 研究テーマに関する資料収集と調査を行う。 2. 研究テーマに関する研究会、講演会、展覧会等を実施する。 3. 研究テーマに関する論文を発表する。  現在確定している具体的な計画は以下のとおり。  シンポジウム「Literature Goes to School: The Uses of Literature in Meiji and Taishō Period Classrooms」の開催 日時：2022年9月3日（土）14：00-16：00 場所：神奈川大学みなとみらいキャンパス（オンライン併用）	村井まや子	村井まや子・鈴木宏枝・渡部かなえ 〔学外〕菅沼勝彦・大塚奈奈絵・中脇初枝	6	2022年度 は無
13	神奈川の地域と文化	横浜をはじめとする神奈川県のさまざまな地域の文化・歴史・民俗・地理・観光の諸相について、本学に集う様々な領域（観光学、考古学、地理学、民俗学、歴史学など）の研究者たちが集い、それぞれの強みを活かしつつ他の領域の手法からも刺激を受けながら、学際的に探究していく。	♪ 2022年度 研究会を数回実施（各メンバーから、それぞれの手法とフィールドで神奈川の地域や文化について考察・調査した内容を報告） 第1回 4月27日（Wed）@ Zoom 第2回 9月18日（Sun）～19（Mon）@ MMC17031  ♪ 研究会での報告をすませたメンバーは、順次叢書掲載の原稿の執筆に着手。	平山 昇	平山 昇・小熊 誠・柏木 翔・後田多 敦・島川 崇・安室 知・高井典子・崔 瑛・中林広一・山口太郎・山本志乃・小泉 諒・清水和明・平井 誠 〔学外〕伊藤泉美	15	検討中 2024年度 予定
14	観光と美術	美術とは、人間が社会を築き、それぞれの歴史、宗教、生活、自然環境から生み出された表現である。最近では地域の歴史遺産や伝統工芸は重要な観光資源としてにわかに注目されてきてはいるが、その活動は一過性のものが多い。本研究グループは、美術（特にファインアート）や工芸デザインの分野に特化し、観光においての功罪を再認識し、その正負の効果を体系化する。美術・工芸デザインの真の美的価値を評価できるアート・リテラシーを向上させることで、観光での活用を持続可能なものにすることが目的である。	1. 国内外の観光地における美術・工芸デザインの活用調査 2. 美術館における観光客誘致の取り組み事例調査 3. 学芸員の役割の変化と観光に与える影響 4. ガイドの質の向上のための高等教育の役割 5. 観光学的アプローチによる美術・工芸デザイン史の再考 6. 美術の視点からの、変えるべきもの、変えないべきものとは 7. 美術分野における観光の功罪の整理	島川 崇	島川 崇・角山朋子・クインタナ シェラー 〔学外〕増子美穂	4	検討中 2023年度 予定

15	言語景観と多文化共生	観光立国日本の多言語表示と情報発信を再考する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本研究には国内外での実地調査が必要不可欠であるため、国内の調査を中心に可能な範囲ですすめる。</li> <li>2. コロナ禍の影響を受け、実地調査は研究開始時の予想どおりにいかなかったが、どのような成果を公開できるか、それらの成果がどのような意義を有するか、随時、整理・蓄積していく。</li> <li>3. 昨年度同様に、オンライン会議ツールを利用しながら、定期的に研究会を開催し、メンバー間での意思疎通をはかる。</li> <li>4. 学外から講師を招いてオンライン形式による講演会を開催し、本研究メンバーだけでなく言語景観に関心をよせる学生にも公開する。</li> <li>5. これらの活動を展開する過程で、言語景観研究を今後どう外国語教育に活用できるかを考察する。</li> </ol>	鈴木慶夏	鈴木慶夏・鈴木幸子・佐藤裕美・由川美音・尹 亨仁・高木南欧子・佐藤 梓・羽場久美子 〔非〕 李 忠均・小林 潔	10	検討中 2023 年度 予定
16	国際日本研究	日本文化（社会や歴史、文学、美術、宗教、メディア等を含む）を国際的な視野で、学際的かつ総合的に研究すること	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メンバー各自の関心に基づく研究会の開催（論文等のドラフトへフィードバックを提供したりすることを含む）（前・後期 2～3 回ずつ程度）</li> <li>2. 学外研究者の講演、研究交流（前・後期 1 回ずつ程度）</li> </ol>	ジェームズ ウェルカー	ジェームズ ウェルカー・ステファン ブッヘンベルゲル・ソニア チック・大島希巳江・マルコ ティネッロ・クリスチャン ラットクリフ・ワイ イー ロ・ブライアン ルバート・クインタナ シェラー・ステファン ヘーブ・知花愛実	11	2022 年度 は無

〔名誉〕 名誉教授    〔元教〕 本学元教授    〔非〕 非常勤講師    〔非助〕 非常勤助手    〔学外〕 学外研究者

活動休止中

	越境する比較文化	比較文学・文化の方法論を用いた研究を行う。	2022 年度は活動休止	ステファン ブッヘンベルゲル	ステファン ブッヘンベルゲル・クリスチャン ラットクリフ・村井まや子・古屋耕平・大島希巳江・ラプリー エスター・バンキア ジョン ジェームズ 〔学外〕 前島志保・島山 寛 〔非〕 ボール シャックルフォード	10	2022 年度 は無
	NCH 新聞研究会	神奈川大学が所蔵する NCH (North China Herald) の新聞 (ONLINE 版) の日本、中国、韓国、東南アジア諸国に関連する新聞記事の研究。	2022 年度は活動休止	孫 安石	孫 安石・岩本典子・村井寛志・泉水英計・山本信太郎 〔元教〕 菊池敏夫 〔学外〕 土屋和代・渡辺美季	8	2022 年度 は無

## 神奈川大学人文学研究所叢書一覧

人文学研究所

No.	年度	タ イ ト ル	出版社
1	1982	悲劇——その諸相と人間観	神奈川新聞社
2	1984	日本文化——その自覚のための試論	神奈川新聞社
3	1985	続 日本文化——伝統と近代化の再検討	神奈川新聞社
4	1986	民族と国家——国際関係の視点から	神奈川新聞社
5	1987	「近代」の再検討——ポスト・モダンの視点から	神奈川新聞社
6	1988	いま・日本と中国を考える——日中比較文化論	神奈川新聞社
7	1990	「民族と国家」の諸問題	神奈川新聞社
8	1990	ロマン主義の諸相	神奈川新聞社
9	1991	インディアスの迷宮——1492～1992	勁草書房
10	1992	聖と俗のドラマ	勁草書房
11	1994	秘密社会と国家	勁草書房
12	1995	ヨーロッパの都市と思想	勁草書房
13	1996	国家とエスニシティ——西欧世界から非西欧世界へ	勁草書房
14	1997	芸能と祭祀	勁草書房
15	1998	笑いのコスモロジー	勁草書房
16	1999	ロマン主義のヨーロッパ	勁草書房
17	2000	ジェンダー・ポリティクスのゆくえ	勁草書房
18	2001	日中文化論集——多様な角度からのアプローチ	勁草書房
19	2002	歴史と文学の境界——〈金庸〉の武俠小説をめぐる	勁草書房
20	2003	「明六雑誌」とその周辺——西洋文化の受容・思想と言語	御茶の水書房
21	2004	新しい文化のかたち——言語・思想・くらし	御茶の水書房
22	2005	中国における日本租界——重慶・漢口・杭州・上海	御茶の水書房
23	2006	世界から見た日本文化——多文化共生社会の構築のために	御茶の水書房
24	2007	在日外国人と日本社会のグローバル化——神奈川県横浜市を中心に	御茶の水書房
25	2008	表象としての日本——移動と越境の文化学	御茶の水書房
26	2009	ジェンダー・ポリティクスを読む——表象と実践のあいだ	御茶の水書房
27	2009	中国・朝鮮における租界の歴史と建築遺産	御茶の水書房
28	2010	世界の色の記号——自然・言語・文化の諸相	御茶の水書房
29	2011	〈悪女〉と〈良女〉の身体表象	青弓社
30	2011	グローバル化の中の日本文化	御茶の水書房
31	2012	植民地近代性の国際比較——アジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験	御茶の水書房
32	2012	戦後日本と中国・朝鮮——ブランゲ文庫を一つの手がかりとして	研文出版
33	2013	色彩の快——その心理と倫理	御茶の水書房
34	2013	先住民運動と多民族国家——エクアドルの事例研究を中心に	御茶の水書房
35	2014	近現代中国人日本留学生の諸相——「管理」と「交流」を中心に	御茶の水書房
36	2014	近代日本の宗教論と国家——宗教学の思想と国民教育の交錯	東京大学出版会
37	2015	〈68年〉の性——変容する社会と「わたし」の身体	青弓社
38	2015	文化を折り返す——普段着でする人類学	青娥書房
39	2016	破壊のあとの都市空間——ポスト・カタストロフィーの記憶	青弓社
40	2017	帝国とナショナリズムの言説空間——国際比較と相互連携	御茶の水書房
41	2017	新・新猿楽記——古代都市平安京の都市表象史	現代思潮新社
42	2018	中国人留学生と「国家」・「近代」・「愛国」	東方書店
43	2018	自然・人間・神々——時代と地域の交差する場	御茶の水書房
44	2019	男性性を可視化する——〈男らしさ〉の表象分析	青弓社
45	2020	近世村落の領域と身分	吉川弘文館
46	2021	明治から昭和の中国人日本留学の諸相	東方書店
47	2021	アフリカン・アメリカン児童文学を読む	青弓社